

注目ポイント！

地域住民による、歴史と文化を活かした活動の展開。
広域連携による、観光地域づくりの推進。



萩のボランティアガイド利用者が約6,000人(H13)から約13,000人(H17)に倍増！



萩の町並み



津和野の町並み

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---|
| 昭和42年(1967) | 萩城下町が、国指定史跡に指定される。 |
| 昭和47年(1972) | 「萩市歴史的景観保存条例」を制定する。 |
| 昭和51年(1976) | 「萩市伝統的建造物群保存地区保存条例」を制定する。 |
| 平成4年(1992) | 津和野町、歴史的景観を有する殿町のライトアップを始める。 |
| 平成13年(2001) | 津和野町の安野光雅美術館が開館する。 |
| 平成15年(2003) | 萩・益田・津和野圏域広域連携観光交流推進協議会が組織される。 |
| 平成16年(2004) | 萩市が「まちじゅう博物館条例」を制定する。
NPO萩まちじゅう博物館が設立される。
萩博物館が開館する。 |
| 平成17年(2005) | NPO萩まちじゅう博物館がワンコイントラスト運動を開始する。
「萩博物館」が手づくり郷土賞を受賞する。 |
| 平成18年(2006) | ワンコイントラスト第1号物件「井上勝旧宅門」完成する。
「萩まちの駅ネットワーク」加盟する27施設が、「まちの駅」に認定される。 |

コラム

観光客と住民の交流を深める民間グループ「萩まちの駅ネットワーク」加盟する27施設が、平成18年6月5日に「まちの駅」に認定された。「まちの駅」は人と人との出会いや交流を促進する拠点づくりを目指すもので、看板やトイレ、休憩場所の提供、まちの道案内や情報提供などを行う。「萩まちの駅ネットワーク」の岩崎会長は「萩を訪れた観光客に、また来たいという気持ちをもってもらえるように努力していきたい」と話している。

主な取り組み

萩まちじゅう博物館

「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」萩。城下町をしのばせる城跡や武家屋敷、町家などが点在し、まち全体がまるで「屋根のない博物館」のようである。

まちじゅうを博物館としてとらえ、この都市遺産を大切に保全・活用し、訪れる人への心からのおもてなしを推進する「萩まちじゅう博物館条例」が制定され、それを実践する「NPO萩まちじゅう博物館」が発足。

このNPOは、文化遺産の調査を行う「都市遺産部会」、文化財にまつわる歴史を調べる「サテライト部会」、ガイドの向上などを進める「外国語ガイド部会」「まち博ガイド部会」などが萩博物館を核として活動を展開。正月飾りづくりや昔の遊び体験イベントなどを行う。

観光客や市民から寄せられた信託金で、文化財等の保全を行う「ワンコイントラスト運動」では、鉄道の父として知られる「井上勝旧宅門」を完成させた。



NPOによるガイド



竣工した「井上勝旧宅門」

歴史を活かしたまちづくりの推進



津和野町のオープンカフェ

吉田松陰ゆかりの萩、森鷗外ゆかりの津和野では、歴史・文化を活かしたまちづくりを推進。

萩市では、江戸時代の町並みを残す浜崎伝統的建造物群保存地区の町並み保存に取り組む有志が「浜崎しっちゃん会」をたちあげ、情報交換や“おたから”を活用したイベントを実施している。

津和野町では、歴史的景観を残す殿町のライトアップや観光ボランティアガイドの会による城山ウォーキングの試み、オープンカフェの試行などに取り組んでいる。

広域連携による観光地域づくり

萩市、益田市、津和野町は、官民協働による「萩・益田・津和野圏域広域連携観光交流推進協議会」を組織。広域案内看板や連携したPR活動など、広域連携による観光振興を図る。域内の美術館が連携する「美術館回廊」では、統一ポスター作成や割引制度の創設を行う。

問い合わせ先

山口県萩市観光課

Tel : 0838 - 25 - 3131

島根県津和野町商工観光課

Tel : 0856 - 72 - 0650

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

<http://www.town.tsuwano.lg.jp/>